



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年11月5日

上場取引所 東 福

上場会社名 株式会社 はせがわ  
コード番号 8230 URL <https://corp.hasegawa.jp/ir/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新貝 三四郎  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 吉安 大輔 TEL 0570-01-7676  
半期報告書提出予定日 2024年11月11日 配当支払開始予定日 2024年12月2日  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	10,831	△5.8	571	△45.0	626	△40.6	446	△36.5
2024年3月期中間期	11,497	0.0	1,038	△17.9	1,054	△17.4	703	△21.5

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	24.55	—
2024年3月期中間期	38.68	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	19,896	12,167	61.2
2024年3月期	18,066	11,903	65.9

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 12,167百万円 2024年3月期 11,903百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2025年3月期	—	7.50	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,500	5.6	1,250	△22.5	1,200	△26.7	800	△24.5	43.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 当社は、株式会社八木研による分割承継会社の株式取得（子会社化）に伴い、2025年3月期第3四半期より連結決算へ移行する予定であります。本株式取得が、当社グループの2025年3月期の業績に与える影響は軽微であります。連結業績予想につきましては、算出でき次第お知らせいたします。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	18,646,376株	2024年3月期	18,646,376株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	455,821株	2024年3月期	455,763株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	18,190,607株	2024年3月期中間期	18,189,875株

(注) 期末自己株式数には、役員向け株式給付信託が保有する当社株式（2025年3月期中間期 132,398株、2024年3月期 132,398株）が含まれております。また、役員向け株式給付信託が保有する株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2025年3月期中間期 132,398株、2024年3月期中間期 133,237株）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間貸借対照表 .....	5
(2) 中間損益計算書 .....	7
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(重要な後発事象の注記) .....	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間(2024年4月1日から2024年9月30日まで)におけるわが国の経済環境は、雇用・所得環境や企業収益などの改善により、緩やかな回復基調にあるものの、原材料価格高騰や円安の進行などの影響により、先行き不透明な状況が続いております。

宗教用具関連業界については、お客様の生活様式やご供養に対する価値観が長い時間をかけて変わり続けております。お仏壇においては、モダンでシンプルなデザインで、より小型化したお仏壇への移行がみられ、ECサイトなど販売チャネルの拡大や、家具販売店、ホームセンターといった他業種の参入による市場変化が顕著となっております。遺骨供養においては、樹木葬や永代供養墓など様々な形態の需要が高まっております。これらの変化から購入単価は下落の傾向が継続しております。伝統的な形式のお仏壇やお墓を必要としないお客様が増加したことから、市場縮小が長期的な問題となっており、多様なニーズに応える新たな商品開発が求められております。

このような環境のなか、当社は2023年3月期からスタートした中期経営計画の中で「手を合わせる機会の創造」と「売り切り型からの脱却」をテーマに、ご供養の領域に加えて、お客様の心豊かな生活(ピースフルライフ)を支援する企業になるために、新たな取組みを行なっております。具体的には、2023年4月よりスタートした相続・遺品整理・不動産整理などの相談対応とサービスの提供を行なうピースフルライフサポート事業と、ご法事の返礼品や、大切な方への贈りものに最適な「食」をコンセプトとした田ノ実のギフトを販売する飲食・食品・雑貨事業です。それぞれの事業について、当事業年度中に軌道に乗せられるように、営業部門を中心に体制を強化し、活動を推進しております。

出店については、百貨店内へ2店舗(4月に栃木県宇都宮市、横浜市港南区)の新規出店を行ないました。今後もお客様が利用しやすい立地、店舗形態の検討を行ない、出店や移転・改装を推し進めてまいります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

#### (仏壇仏具事業)

仏壇仏具事業については、商品開発の分野に注力いたしました。4月には飛騨産業株式会社と共同開発した日本の森林資源を有効活用したサステナブルなお仏壇『k i n o e (キノエ)』、5月には建築家 隈研吾氏がデザインを手掛けたお仏壇『薄院 上置き型』、6月にはカリモク家具株式会社と共同開発したスリム&スタイリッシュなお仏壇『HK ORTO (エイチケイ オルト)』などの新商品を順次販売開始いたしました。

#### (墓石事業)

墓石事業については、主力である墓石販売のほか、自社企画樹木葬の販売を推進してまいりました。当中間会計期間は、東日本地区で6物件、西日本地区で3物件、合計9物件の自社企画樹木葬が開園し、受託販売を開始いたしました。

#### (屋内墓苑事業)

屋内墓苑事業については、各施設を巡る合同バス見学ツアーなど多様なイベントを開催し、営業店からの集客が増加しました。また、建築家 隈研吾氏がデザイン設計を手がけた千日谷浄苑(東京都新宿区)の販売が堅調に推移いたしました。

#### (飲食・食品・雑貨事業)

飲食・食品・雑貨事業については、田ノ実のギフトの販売を推進しております。ご予算に合わせて選べるカタログギフトをはじめ、吉野の葛餅(奈良県)、五色そうめん(愛媛県)など全国各地の厳選した食品を営業店で販売いたしました。田ノ実自由が丘店では、1階食物販・2階カフェともに売上が堅調に推移いたしました。

#### (その他事業)

その他事業については、EC販売では、低価格帯のお仏壇を希望されるお客様に対して、ECサイト限定の商品を展開し、販売基数が増加いたしました。ピースフルライフサポート事業では、7月より『仏花の定期便』のサービスラインナップを拡大し、仏花・お線香のセット商品を展開いたしました。また、各営業部に専任スタッフを配置し、営業店との連携を強化したことが、紹介件数の増加に繋がりました。

このように、各事業において施策を推進しましたが、来店組数が減少し、売上高は108億31百万円(前年同期比5.8%減)となりました。また、営業利益は5億71百万円(前年同期比45.0%減)、経常利益は6億26百万円(前年同期比40.6%減)となり、中間純利益は4億46百万円(前年同期比36.5%減)となりました。

集客策については、当社の強みや取扱い商品の幅広さが訴求できるようにWEBサイトのデザイン変更や、マス広告・WEB広告の運用改善を行ないました。今後も試行と検証を重ね、お客様との接触数を最大化してまいります。販売教育については、営業施策の一つである付加価値販売強化を目的に、おもてなしの精神、ご供養の大切さを学ぶ理念教育を営業店で行なっております。

また、当社は、2024年10月1日付で株式取得により株式会社現代仏壇を完全子会社化いたしました。株式会社現代仏壇が持つ商品ブランドと高品質な商品を受け継ぎ、さらには、全国各地に新たな販売拠点を獲得することによって当社の中核事業である仏壇仏具事業をさらに成長させてまいります。

なお、当社の報告セグメント別売上高は次のとおりであります。

(報告セグメント別売上高の構成比及び前年同期比増減)

報告セグメント等の名称	区 分		前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)		前年同期比増減		
			金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	
			報告セグメント	仏壇 仏具・ 墓石	東日本	仏壇仏具	6,399	55.7	5,964
墓石	2,015	17.5				1,866	17.2	△149	△7.4
計	8,415	73.2				7,830	72.3	△584	△6.9
西日本	仏壇仏具	1,677			14.6	1,584	14.6	△92	△5.5
	墓石	428			3.7	363	3.4	△65	△15.3
	計	2,105			18.3	1,948	18.0	△157	△7.5
計	仏壇仏具	8,076		70.3	7,549	69.7	△527	△6.5	
	墓石	2,444		21.2	2,229	20.6	△214	△8.8	
	計	10,521		91.5	9,778	90.3	△742	△7.1	
	屋内墓苑	276		2.4	302	2.8	26	9.5	
飲食・ 食品・ 雑貨	食のギフト 田ノ実 計	食のギフト		69	0.6	97	0.9	27	40.1
		田ノ実		43	0.4	46	0.4	2	6.8
		計	113	1.0	144	1.3	30	27.3	
その他	EC販売		389	3.4	416	3.9	27	7.0	
	ピースフルライフサポート		8	0.1	44	0.4	36	446.1	
	卸売販売 他		188	1.6	144	1.3	△44	△23.4	
	計		586	5.1	605	5.6	19	3.3	
合 計			11,497	100.0	10,831	100.0	△665	△5.8	

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間会計期間末における資産合計は、借入の実行等により現金及び預金が16億54百万円増加したことなどにより、前事業年度末に比べて18億30百万円増加し、198億96百万円となりました。

(負債)

当中間会計期間末における負債合計は、未払金が1億90百万円及び流動負債のその他(主に未払費用及び預り金)が1億65百万円それぞれ減少したものの、借入の実行により長期借入金(1年内返済予定を含む)が19億83百万円増加したことなどにより、前事業年度末に比べて15億65百万円増加し、77億28百万円となりました。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は、その他有価証券評価差額金が45百万円減少したものの、主に中間純利益4億46百万円を計上し利益剰余金が3億9百万円増加したことにより、前事業年度末に比べて2億64百万円増加し、121億67百万円となりました。

当社は、自己資本比率を主要な経営指標の目標とし、財務体質の強化に取り組んでおります。

当中間会計期間末においては、自己資本比率は61.2%(前事業年度末は65.9%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月15日付の「2024年3月期 決算短信」で発表いたしました業績予想から変更はございません。

また、当社は、株式会社八木研による分割承継会社の株式取得(子会社化)に伴い、2025年3月期第3四半期より連結決算へ移行する予定であります。本株式取得が、当社グループの2025年3月期の業績に与える影響は軽微であります。連結業績予想につきましては、算出でき次第お知らせいたします。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,053	3,707
受取手形、売掛金及び契約資産	1,005	971
商品	3,624	3,713
その他	235	339
流動資産合計	6,919	8,731
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	428	420
造作(純額)	371	403
土地	616	616
リース資産(純額)	68	44
その他(純額)	318	321
有形固定資産合計	1,803	1,806
無形固定資産	235	211
投資その他の資産		
投資有価証券	657	592
関係会社株式	38	38
前払年金費用	672	664
営業保証金	3,316	3,367
販売保証金	3,441	3,429
差入保証金	1,244	1,233
その他	221	175
貸倒引当金	△482	△354
投資その他の資産合計	9,108	9,146
固定資産合計	11,147	11,164
資産合計	18,066	19,896

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	548	527
1年内返済予定の長期借入金	1,053	1,232
リース債務	52	33
未払金	683	492
未払法人税等	153	229
契約負債	1,050	975
賞与引当金	305	307
資産除去債務	5	12
その他	485	319
流動負債合計	4,337	4,129
固定負債		
長期借入金	1,230	3,035
リース債務	28	16
繰延税金負債	48	40
役員株式給付引当金	33	38
退職給付引当金	46	46
資産除去債務	406	403
その他	31	18
固定負債合計	1,825	3,599
負債合計	6,162	7,728
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,037	4,037
資本剰余金	1,583	1,583
利益剰余金	6,123	6,432
自己株式	△171	△171
株主資本合計	11,573	11,882
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	330	285
評価・換算差額等合計	330	285
純資産合計	11,903	12,167
負債純資産合計	18,066	19,896



(2) 中間損益計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	11,497	10,831
売上原価	4,402	4,055
売上総利益	7,095	6,775
販売費及び一般管理費		
販売促進費	530	575
販売手数料	645	582
給料及び賞与手当	2,068	2,155
賞与引当金繰入額	329	301
退職給付費用	89	89
福利厚生費	555	555
株式報酬費用	4	4
賃借料	557	577
その他	1,276	1,361
販売費及び一般管理費合計	6,056	6,204
営業利益	1,038	571
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	8	9
移動運搬収入	13	4
受取補償金	—	57
その他	21	14
営業外収益合計	43	86
営業外費用		
支払利息	10	13
債権売却損	10	11
その他	5	7
営業外費用合計	27	32
経常利益	1,054	626
特別利益		
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
災害による損失	18	—
関係会社株式評価損	16	—
特別損失合計	34	—
税引前中間純利益	1,023	626
法人税、住民税及び事業税	286	167
法人税等調整額	33	11
法人税等合計	319	179
中間純利益	703	446

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	1,023	626
減価償却費	102	135
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△152	△128
賞与引当金の増減額 (△は減少)	5	2
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	1	0
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	1	4
受取利息及び受取配当金	△8	△9
支払利息	10	13
売上債権の増減額 (△は増加)	△45	34
棚卸資産の増減額 (△は増加)	111	△89
仕入債務の増減額 (△は減少)	△279	△21
契約負債の増減額 (△は減少)	△186	△74
その他	192	△126
小計	775	366
利息及び配当金の受取額	8	9
利息の支払額	△11	△19
法人税等の支払額	△399	△95
営業活動によるキャッシュ・フロー	373	261
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△45	△216
無形固定資産の取得による支出	△27	△2
投資有価証券の売却による収入	10	—
貸付金の回収による収入	—	5
営業保証金の支出	△198	△435
営業保証金の回収による収入	379	292
販売保証金の支出	△249	△156
販売保証金の回収による収入	33	96
差入保証金の差入による支出	△12	△6
差入保証金の回収による収入	15	17
その他	△9	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△101	△415
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	900	2,700
長期借入金の返済による支出	△676	△716
自己株式の取得による支出	△0	△0
リース債務の返済による支出	△36	△31
配当金の支払額	△136	△137
財務活動によるキャッシュ・フロー	50	1,814
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	322	1,660
現金及び現金同等物の期首残高	2,878	1,991
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,200	3,651

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注) 1						その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	中間 損益計算書 計上額 (注) 4
	仏壇仏具・墓石			屋内 墓苑	飲食・ 食品・ 雑貨	計				
	東日本	西日本	計							
売上高										
外部顧客への売上高	8,415	2,105	10,521	276	113	10,910	586	11,497	—	11,497
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	8,415	2,105	10,521	276	113	10,910	586	11,497	—	11,497
セグメント利益又は損失(△)	861	241	1,102	94	△13	1,184	△30	1,154	△115	1,038

(注) 1. 報告セグメントの「仏壇仏具・墓石」及び「飲食・食品・雑貨」は、小売事業であります。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、仏壇仏具事業(卸売販売・EC販売(小売))及びピースフルライフサポート事業(相続・遺品整理・不動産整理の相談対応等)などです。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△115百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。

4. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	中間 損益計算書 計上額 (注)4
	仏壇仏具・墓石			屋内 墓苑	飲食・ 食品・ 雑貨	計				
	東日本	西日本	計							
売上高										
外部顧客への売上高	7,830	1,948	9,778	302	144	10,225	605	10,831	—	10,831
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	7,830	1,948	9,778	302	144	10,225	605	10,831	—	10,831
セグメント利益又は損失(△)	449	150	600	117	△8	709	△29	680	△108	571

- (注) 1. 報告セグメントの「仏壇仏具・墓石」及び「飲食・食品・雑貨」は、小売事業であります。
2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、仏壇仏具事業(卸売販売・EC販売(小売))及びピースフルライフサポート事業(相続・遺品整理・不動産整理の相談対応等)などであります。
3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△108百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。
4. セグメント利益又は損失(△)は、中間損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象の注記)

(株式取得による企業結合)

当社は、2024年8月5日開催の取締役会において、株式会社八木研の保有する仏壇仏具事業を会社分割(吸収分割)により承継させた株式会社現代仏壇の株式を、双方の合意に基づき取得すること(以下「本株式取得」という)を決議いたしました。また、株式会社八木研と2024年8月26日付で株式譲渡契約を締結し、当該譲渡契約に基づき2024年10月1日付で同社の全株式を取得しております。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業内容

被取得企業の名称 : 株式会社 現代仏壇  
事業の内容 : 仏壇・仏具の小売及び卸売

(2) 企業結合を行なった主な理由

当社は創業以来、仏壇仏具事業を中核事業として位置づけ、成長に向けた事業活動を推進しております。この度、「現代仏壇」などの主力商品ブランドを軸に小売業及び卸売業として、お仏壇販売を全国で展開してきた株式会社八木研が会社分割により仏壇仏具事業とそれに付随するストアブランド及び商品ブランド等を承継させた100%子会社の全株式を取得し、株式会社八木研が長年にわたり形成してきた強い商品ブランドと高品質の商品を当社グループに加えることで、企業及び商品ブランドの強化を実現できるものと考えております。

また、本株式取得により、当社グループは仏壇仏具事業において販売数量の拡大を実現するとともに、未進出地域における新たな販売拠点を得ることとなります。当社としては、従来の商圏での事業活動の推進とともに、新しい商圏において地域ごとの状況や、お客様の価値観やニーズに合わせて、最適な商品・サービスを提案・提供してまいります。

今後は、当社グループとして更なる収益性の改善に取り組み、売上高の成長及びそれを上回る利益成長を目指してまいります。

(3) 企業結合日

2024年10月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価とする株式取得により議決権の100%を取得したことによるものであります。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得価額につきましては第三者算定機関による評価等を総合的に勘案して決定してまいります。

3. 主な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等(概算額) : 10百万円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

6. 支払資金の調達方法

自己資金及び借入金

7. その他

本株式取得により、当社は2025年3月期第3四半期より連結決算に移行する予定であります。

(固定資産の取得)

当社は、2024年8月5日開催の取締役会において、株式会社八木研の保有する土地・建物を、双方の合意に基づき取得することを決議いたしました。また、株式会社八木研と2024年8月26日付で不動産売買契約を締結し、当該売買契約に基づき2024年10月1日付で下記土地・建物を取得しております。なお、当該売買契約は、株式会社八木研と2024年8月26日付で締結した株式譲渡契約と一体であることを当社と株式会社八木研、双方で合意しております。

1. 取得の目的

株式譲渡契約と一体の契約に基づき取得しております。

2. 取得資産の内容

(1) 所在地 : 大阪市東成区  
取得資産 : 土地・建物  
取得価額 : 700百万円  
取得時期 : 2024年10月1日

(2) 所在地 : 東京都大田区  
取得資産 : 土地・建物  
取得価額 : 100百万円  
取得時期 : 2024年10月1日

3. 支払資金の調達方法

自己資金及び借入金